

平成 29 年度 緑苑 事業報告

I 概要

1) 利用者動向

- ・従来型特養は退所者 18 名(永眠 15 名・長期療養 3 名)や入院者の変動で利用実績 92.3%に留まった。
- ・地域密着特養は退所者 4 名(永眠 3 名・長期療養 1 名)や入院者の変動で利用実績 95.3%だった。
- ・短期入所は多数の新規利用者やリピーターの利用期間が定着し利用実績 115%と利用が安定した。
- ・養護は入所件数が退所件数を下回り(入所 4 名、退所 6 名)であった。高齢化・重度化が進む一方で、入所 4 名が 69~74 歳と若く、平均年齢が若干返った。
- ・自立支援ショートは実利用者数が 9 名で稼働率は 15.1%となり毎年減少傾向である。

2) 職員動向

- ・職員体制は、年度当初 111 名(正職員 52 名、再雇用 2 名、準職員 57 名)であった。年度内の常勤職員の退職 9 名(内定年 3 名)、入職 8 名の変動であったが就職後 3 年以内退職者が 5 名と定着が悪かった。また、非常勤職員の入職 15 名、退職 15 名と同数であったが、夜勤パートの退職者が 7 名であったため、夜勤体制の確保と介護員の補充に苦慮した。

3) 平成 29 年度事業計画についての報告

- ・地域の居場所づくりとして、施設活動等に昼食会後の映画会やサークル 4 活動への参加があり、延 359 人と定着した。
- ・利用者の生活に沿った援助が効率よく行えるために、職員の業務の分析を進めてきたが、まだ見直すまでに至っていない。次年度も継続した協議事項としている。
- ・地域包括支援センターでは、相談者実数(前年度比 98 人増)が増え、また制度の狭間で生活が困窮している事例や家庭問題・困窮問題・在宅療養等の課題が多くなってきていることから、1 ケースの解決までの期間が伸びてきている。

4) 平成 29 年度重点の動き

- ・東館 2 階浴室改修に向けてプロジェクトを立ち上げ、利用者の状態像に合った浴槽の選択と、持ち上げない移乗を目標に検討し、3 月に改修工事を行った。
- ・昼食会(年間 4183 食)の 1 日平均参加 11.4 食と定着し、昼食後のサロンのような居場所につながっている。

II 事業別動向

区分	成 果	課 題
特養	居室担当者を中心に利用者との関わりを深め、また生活目線を持てる職員育成を行い利用者主体の生活を目指し充実した生活と感じていただけるよう取り組んだ。	情報の共有や継続的支援のできるフロア体制の整備と他部署との連携
短期入所	本人・家族の意向に沿った支援を行い、在宅に戻っても安定した生活が送れるよう支援に取り組んだ。	特養との協働。情報共有の発信と周知体制づくり
養護	朝・夕のミーティングで看護師とも意見交換をすることおよび個別援助計画に細かい支援まで記入することで、統一した支援ができるよう努めた。	職員が忙しいそうで、利用者が声をかけにくいとの意見あり。
自立支援ショート	昨年 12 月までは稼働率が 5%ほどであったが、1 月から長期利用者も増え、最終的な稼働率は昨年とほぼ変化なし。	利用基準が不明確な面もあり、市と確認していく。
地域包括支援センター	イベント参加・各種講座開催等を通じ、地域のネットワーク形成を進めることが出来た。地域交流スペースを活かして気軽に集える場づくりやボランティア活動・自主活動等に相互に繋がる環境作りを進めた。	更に地域に根差した活動を進めるため、地域資源とのつながりを深めていく必要がある。
事務	関係部署と連携を図り、適正な財務、請求、庶務業務を行い、安定した事業運営に貢献した。	適正なサービス区分別収支、サービスの向上
管理	東館 2 階の浴室改修工事を実施し、利用者の状態にあった個人浴槽を整備することができた。	適正な人員と職員の育成と定着化。

III リスクマネジメント

1) 苦情・第三者評価

- ・苦情なし。第三者評価を 10 月に実施し、利用者の声(満足度)を伺えた。

2) 感染症等予防・蔓延防止の取組

- ・インフル予防接種や持込まない、持出さない対策に取り組んだ。職員 5 名、特養利用者 2 名、ショートステイ 1 名の発症があったが、集団感染にはならず終息することができた。

3) 緊急対応・事故

- ・事故 29 件(転倒・誤薬等)、再発防止にむけ発生要因と対応を検証、事故防止研修により共有した。また、各部署から挙げられたヒヤリハット(年間 523 件)を集計し、個人要因・環境要因・援助者要因の視点で整理し共通した要因を現場に持ち帰り検証と対策に当たった。

4) 防災・防犯

- ・火災想定、大規模地震想定等の反復訓練や不審者対応訓練などを行い自然災害等の備え意識を高め、BCP(事業継続計画)の具体的な行動計画の策定に向けた。

5) 勤務管理

- ・各部署の勤務状況を朝夕礼で確認調整をした。超過勤務実態を部署責任者が月毎に把握した。

IV 事業別年間の実績概要

1) 入所部門

(単位：名)

	定員	利用者(実施数)				入院者数		新規利用		利用終了		平均		待機者
		延べ人数	月平均	稼働日数	利用実績(%)	実人数	月平均	実人数	月平均	実人数	月平均	要介護度	年齢(歳)	
従来特養	60	20214	1684	365	92.3	35	2.9	16	1.3	18	1.5	3.8	88.9	205
地域密着特養	20	6942	578	365	95.3	7	0.5	4	0.3	4	0.3	3.7	87.6	88
短期入所	10	4199	349	365	115	—	—	26	2.1	21	1.7	2.7	85.5	—
養護	50	16242	1354	365	88.9	8	0.7	4	0.3	6	0.5	2.3	83.2	
自立支援	4	221	18	365	15.1	—	—	9	0.7	5	0.4	0.1	79.4	

※待機者は、申込書を提出したことがある者を言う。

2) 支援センター部門

(単位：名)

		利用者(実施数)				新規利用		利用終了		平均	
		延べ人数	月平均	年間実人数	月平均実人数	実人数	月平均	実人数	月平均	要介護度	年齢(歳)
地域包括支援センター(総合相談)		4275	345.2	782	65.1	247	20.6	103	8.6	—	—
介護予防推進事業	元気アップ	2105	175.4	208	69.3	30	2.5	208	69.3	—	—
	地域交流体操	891	74.3	140	46.7	20	1.7	—	—	—	—
地域デイ		2912	242.6	64	3.9	11	0.9	5	0.4	—	—
予防居宅		926	68.8	106	77.2	31	2.6	26	2.2	1.7	80.9

3) 苦情・事故報告

	延べ件数	月平均件数	解決件数	未解決件数	対応中件数
利用者からの苦情	0	0	0	0	0
事業所からの苦情	0	0	0	0	0
職員からの苦情	0	0	0	0	0
その他苦情	0	0	0	0	0
施設内事故	29	2.4	27	0	2
施設外事故	0	0	0	0	0